

「哥葛カエデ、かかずらう！」

作：成田良悟先生

※本文の内容を自由に構成、作画いただき6～12ページの原稿をご提出ください。

（本文の内容を全て描く必要はございません。好きな箇所を抜粋してOKです）

※キャラクター造形は自由にデザインしてください。

ナレーション『^{か かずら}哥葛カエデ！』

今時の若者風の美少女のアップ。

ナレーション『それは現役女子高生でありながら、^{ベズ}流行りの最先端に行くトップモデルにして歌手！』

ナレーション『SNSで80万人のフォロワーを持つ若手期待の動画配信者！』

ナレーション『ゲーム実況でも死にゲーをノーミスクリアする^{つわもの}兵だ！』

上のナレーションに合わせ、様々な活動をするカエデの絵。ザ・ポップ&キュート！

ナレーション『…というか、死にゲーで死なないのに、トークを持たせる技術が凄い』

ナレーション『…そんな正真正銘天才の彼女の新しいマネージャーが募集されー』

ナレーション『こうして、俺も何故か最終選考に残れた…筈なんだが…』

横文字ナレーション【元お笑い芸人：^{あいじま}相島フラグ（28歳）】

周囲を見ると、「眼鏡をかけて分厚い辞書のような本を読む女子中学生」「歴戦の殺し屋のような怖い目と顔の傷が特徴的な白人男性」「片目もしくは両目を髪の毛で隠した黒いスーツ姿の大人っぽい女性」「正統派美少年？」など一癖も二癖もある面子が。

相島ナレーション『会場…マジでここで合ってる？』

円卓に座りながら、首を傾げる相島。

相島ナレーション『大丈夫？ なんか俺、バトル漫画の敵幹部会と場所間違えた？』

相島ナレーション『なんで円卓なんだよ』『面接やる環境じゃないだろ』

殺し屋のような男と目が合い、ジロリと睨まれる。OH！ ショッキング！！

相島ナレーション『ひいっ』

顔を青くしていると、相島の隣に座る眼鏡の少女がクールに語り掛けてくる。

眼鏡少女、牛倉サナ「相島フラグさん、ですね」

横文字ナレーション【クイズ王：^{うしくら}牛倉サナ（14歳）】

相島「え？ あ、ああ」

相島ナレーション『クイズ番組で見た事あるな、この子』

牛倉サナ「お笑いコンビ『ガンジスボンベ』のツッコミ担当、若冠18歳で番組デビュー」

牛倉サナ「数々の賞を受賞し、順風満帆だった10年目に、相方がヤングガンガンを132冊万引きすると
いう不祥事を起こし解散…」

相島「うん…よく冊数まで覚えたね…」

相島ナレーション『クイズには出ないよ、その数字』

ハッとするサナ。クールな調子はどこへやら、涙目でアワアワと謝罪してくる。

サナ「ご、ごめんなさい！ 不愉快な話でしたよね！？」

サナ「わ、私、知識を語る時はちょっと倫理感が無くなって…」

相島ナレーション『テレビに死ぬ程向かない体質だ』

相島「いいよ、悪い子じゃないのは解ったから」

涙を拭い、クールさを取り繕いながら相島に話を続けるサナ。小さなコマで『ファンです、サイン下さい』というサナと『いいよー』と答える相島のデフォルメ絵が挟まるとグッド。（これは必須ではないです）

サナ（コホンと咳払いしてから、ヒソヒソと）「…それにしても、凄い面子です」

サナ「東欧のなまはげと呼ばれた傭兵、ウラド・ザシュネルさん」

怖い傭兵のアップ。名前ナレーション【東欧のなまはげ：ウラド・ザシュネル】

相島ナレーション『なまはげ？』

サナ「人の心を読めると言われる超能力者、バラージ^{まちむら}町村さん」

目隠れ女子のアップ。名前ナレーション【サイキッカー：バラージ町村（年齢不詳）】

相島ナレーション『マジかよ、本当ならラジオ体操の動きしてみて』

無表情のまま、突然上半身だけでラジオ体操するバラージのデフォルメ絵。可愛い。

突然の奇行に顔を向ける傭兵と、ビクとする美少年。サナも「？」となる。

相島ナレーション『本物だよサンキュー！ 畜生、俺ここでは絶対Hな事は考えない！』

無表情のまま、ムフーと自慢げなポーズを取っているバラージ。

サナ「そして、全国指名手配中の怪盗『ミステリ・ア』君です」

謎の美少年？のアップ。名前ナレ【現役怪盗：本名&性別&年齢不詳】

相島ナレーション『警察沙汰じゃねえか』

相島「っていうか、マネージャー経験者いらない？」書き文字「俺も含めて」

すると、ガチャリと扉が開き、芸能オフィスの社長と秘書が入ってくる。

芸能オフィス社長「くくく……活きの良さそうな連中が集まったものよ……」

秘書「社長は『将来有望な人材に出会えて光栄』と申しています」

相島ナレーション『通訳？』

社長「諸君に求める事は一つ。いかなる障害をも斬り伏せ、冷酷非情に叩き潰す事だ！」

秘書「社長は『カエデの我が儘^{わがまま}を彼女の代わりに達成して欲しい』と申しています」

社長はこの口調のまま老獪なお爺さんでもOKですし、この口調で女子高生とかでもOK。秘書の性別年齢も自由なので、皆さんのセンスで絵的にインパクトある組み合わせを！

相島「我が儘？」

サナ「聞いた事があります」

サナ「カエデ嬢は我が儘を押し通す人で、マネージャーを困らせていると…」

相島「なるほど、それでみんなが辞めて人員不足に…？」

秘書「説明の為に、具体的な説明をしましょう」

すると、秘書が天井からスクリーンを下げ、そこにプロジェクターで映像を投影する。

相島ナレ『まさか、裏の顔が…？』

マネージャーに『ヤングガンガン買って来い、1分以内な』と我が儘を言ってるカエデの姿を想像し、ゴクリと息を呑む相島。

だが、映像に映し出されたのは——お婆さんの荷物を運んであげるカエデ、ヤクザの集団に埋められる直前の青年を助けるカエデ、ヒグマと戦うカエデ、遺跡で転がる大岩に追われるカエデ、更に+αで自由に「なんか人助けで凄い事になってる」姿のダイジェスト。

映像の後、一瞬の間。見てる五人の反応を入れる入れないは御自由に。

相島「…あの、これは？」

秘書「当社のカエデは、極度の『お人好し』かつ『お節介焼き』でして」

秘書「トラブルを見かけては、我々が止めようともその天才性で無理矢理解決し、しかも仕事に穴を開けた事も一度もございません。ですが…」

社長「クク、^{ほうずる}鳳雛でありながら命知らずな娘よ…」

秘書「『今までは大丈夫だったけど、そろそろ倒れると思うからマネージャーを増員してフォローする』と申しています」

ウラド「話は分かった…」「つまり、彼女の行く先で困りそうな人間を事前に消せ……と」

相島ナレーション『東欧のなまはげって、見たら死ぬ系の怪異なの？』

社長「クク…そう急くな。時には牙を隠すのも肝要…」

秘書「社長は『んな真似してバレたらカエデが炎上するだろうがボケ』と申しています」

相島ナレーション『怪盗がいる時点で炎上すると思うけど、大丈夫？』

相島ナレーション『…しかし、面子に合点がいった』

相島ナレーション『彼女が様々なトラブルに巻き込まれても、全方面で対処できるような面子…』

相島「あれ？」「…俺は？」

主人公が呟くと同時に、開け広げられる扉！ そこから現れたのはカエデ本人！

カエデ「社長！ 失礼します！」

彼女はまたどこかで何か凄い人助けをしてきたのか、学生鞆に手裏剣が突き立ったりなんかえらい事になっている。

カエデ「うちの事務所が、マネージャー不足だと聞きました！」

カエデ「安心して下さい！」「私自身が、私のマネージャーになります！」

相島ナレーション『この瞬間、理解した』

呆れた顔の相島。

相島ナレーション『俺の役目は——彼女をツッコミで止める事なのだろうと』

果たして相島の運命や如何に……？